HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	國民社會についてNO1　37
Author(s)	鈴木, 栄太郎
Issue Date	1964-02-23
Doc URL	http://hdl.handle.net/2115/77516
Type	manuscript
Note	『鈴木榮太郎著作集 7（国民社会学原理ノート）』を出版した際のソースとなった原稿である（同書内での言及による）。
File Information	I041_01NO137S38.pdf

Instructions for use

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

意匠登録 No.151492 ノ－2

講演草案ノート

X-1

37

NOTE BOOK

CONTAINING BEST RULED FOOLSCAP

國民社會について

No. 1

三十八年十月九日の分

コクヨ

目次

コミュニティ形成と産業組織の問題 1
土地と環境問題 4
大集団化と地域社会 7
多様な人間関係と都市 10
村落と都市と市民活動の構造 13
要約 14
新しい結合形態 15
新しい集団の組織 15
市民活動の形態 17
市民の定義 18
市民構造の要約 19
市民活動の特質 20
市民活動の方法論 21
市民活動の方法 22
市民活動の方法の決 23
市民活動の方法の決 24
市民活動の方法の決 25
市民活動の方法の決 26
市民活動の方法の決 27
市民活動の方法の決 28
市民活動の方法の決 29
市民活動の方法の決 30
市民活動の方法の決 31
市民活動の方法の決 32
市民活動の方法の決 33
市民活動の方法の決 34
市民活動の方法の決 35
市民活動の方法の決 36
市民活動の方法の決 37

#中口民は勝手に自分の口実で
得ることはできない。
しかし一方の主張だけで、ないし人、論争する
ことがあってはならない。
こうした基本的な政党の人々を予定に
口外にしか中華主義にかける口民
の政府は政党の政府へ。一民族が他
民族を征服は進歩することもあ
りたる。口家としての機構にはいわゆるが
警備などあるで、民族構成に発達した人々の
発言をもって、他人権の政党は口家の
枠外にはつかれるうるあろうわる。もはや口
家は共生共栄的な一体を生命によるものか
組織ついいけないのは口家として機構を武力で破壊
していくするである。

② コミュニティー理論と防衛の現実的あり方の一つ

コミュニティーにしても全体大会でも民衆が絶対の
中から委ねるかどうかが絶対の指導者に出
組織されていかなければならないと考えられ
る。
然し中共から日本に共産圏の勢力はないが
日中、ソ勝大使館の援助でソ勝に
侵されないと限らない。国民は金がない
ソ勝は、価値がーつ、ばかりで日本の要塞
に潜され、日本でも人の争を起すような
台湾か日本に侵入されば、まず子供は別
がすになるのであろう。一口家への信頼は
まず安易なやさしいもののではない。
#国民の概念は

/

中共は、ソ連は死の脅威を大きなものとしておりました。中共は、ソ連がいつ攻撃してくるかもしれないという不安な気持ちをもっていたのであります。その強制をかけるのが、ソ連は死を覚悟しなければならない。

日本への脅威は自分の勢力をつよくしようとする強制によっておるのであります。

中共は、ソ連の強い強制力をはねかけよ。

コミンテルンの発足も金銭的援助の導入

日本をなくしようとしている。性は悪いことを成長しかも日本は日民に対しても、よくしようと日本は自分自身の中華の為に自分は侵略主義に移動する。

※死花の口民は口家でもあるが、
ふるいよりも、ひとりの国がにかたむいてゆく。
各代表者の陽仁でもあるとともに融家する。
すべてのものがつくりたいと思う。

(※)厚生が人は決定に口家の掌の内に
言生の陽仁の内に生活しまた。
自分の人口家は陽仁の力は
もの。

ぬ。
出ることまでは、切り目なく絶滅してきた。
口家を外からなく内から性質する。
世界人作る対象としての口家にのみ隠意して
人を作ることのできる口家の
人の現場。
時は、い方が出りなし
国家は近隣仲間で作られた大きなグループではなく、
その中で生みおとされた大船である。
何千年前に出港した港がどこであったかは今では問題
にならぬ。目の前の大海が問題である。

3

今の
口家は口民が国は作ったのではなく
口民の一人一人
なれるものである。
口家のウブな成立は土地共同体の
次の口民の合意であった。その内人的要素
が国家しんく異く国家
悪い時代の口家と口民の関係はちがう
切実な口民の絶意の内に生まれたもの
思わ、如し今死花口民が口家を
如何に造るとり体験しているかは別の
問題である。(#)
古い時代の感覚を全のない呼んでいるのを
全のない死花にあてはめるのである。※

アメリカ南部の都市で二人のクロンボが白い少女と
胸いっぱいにかけつけてデモしている
姿を新聞で見た。そのプラカードには「解放を
特別のおなさけを祝っているのではない
正義を祝っている」と書いてあった。

（口実は悪にも強いが善にも強い。
人種偏見は口実の実力によってのみ
解決し得ると思う。）

口実のもとでこうした人種偏見を
黙認するわけ米国は決してなくなれば
ばいいのだ。それをくりかえすのは
誤った人間の扉をなぐるようなものだ。
口実作りする人は明日を恐れているのだ。
思われる。

＊

4 行動にあたっては話し合いが人種
平等と

＊ 今日まで成長した文明の口実では
人は皆平等であるのを違ってまえれしている。

結局には何回試みても、それを使いなさい
はいけません。
強制的に
口腔内の外科
口腔は一歩先に安全を確保しなければ
なりません。

コミュニティーは全体主義的な日蓮教の
外に林檎や柳葉が同様のものと
思われている。全体主義では若い日蓮
の様である。然し林檎と柳葉とは
別に皆同様のものであると言ふ
である。
柳葉社会主義者は第一にこの七月に世界
の柳葉に同人をもつ学者を招かれ
の昔ものについて一ケ月の島々を巡歴して
講演して歩いた。人島のナトス島で
人類の柳葉の運命について又その対策について
デロス宣言を樹立した。
この七月十二日のことである。

6

この宣言の基礎になっているものは Human Rights の尊厳（人間宣言）の尊厳である。

（これは正に基礎死者の尊厳である。）

第五項目に都市の四の機能、居住、職場、レクリエーションを定めている。

私の都市の死の機能は、ほとんど居住と職が都市の支配されている。

都市の機能が錯綜、錯雑はあまりに複雑化は特に重要視されるレクリエーションは絶対なのである。その前は日本人は事実生活をレクリエーションは殆どなかった。あるのは乗り物中毒であるが、それは働き過ぎのためである。

地域社会における中心、集中が予想されているような地域開発だとしかも地域中心はない。

都市の未来像は明示されていない。

然し巨大都市圏、都市群、都市は都市未来像として考えられなければならないか。口家があるべき姿である。

都市が最大。世界連邦の中心都市は都市の問題でなく口家の問題である。

都市はしかし同一の矛盾にあるもので、口家はアクシデントしこの事情の種種で色々のアプローチ底にあるのかこれらの矛盾は一度でしょう。そのまは都市もの相違ともいえるのである。それは多くに集まっている機関によって異質的に視聴するから来る。異質は機能、都市には力機の機関がある。口を死角はその外の機関はない。

そして口家形態を構成している。

最基盤的構成は世帯と婚姻以外にはない。

世帯と職場の分化が農村と都市の生活様式の大分岐点であるが、職場は文化の発展と共に食と世帯を離れて、ふたたび就業者の圧倒的大部分は職場の力は何時のせれも所属の職場の力に大きい。特に大企業が発達した企業の口民化への要求は益々大きくなりつつある。

＊

土地の共同体の形成を求めるおのおのから口承伝承
今では人はまず口承伝承と口承の学問に集中
しているように思われる。口承の学問は口承をあげて
その関心である。
中心、中空の口承論争はイントネーションの
等価、中心の方は特定されている。
例外の陣営の等価も
今日では人の土地と陸の風じゃなく
口承論のみに集中していると考える。

○天芦荒　土地の播磨陸

対馬の共同体　厚狭のアシラム設
長門の国　長門の山中で校で地を新しく
神に備用の祈りの祈り　教
アシラムは原始人の初しの大きの
土地の共同体＊

テリトリーの存在
横口人のシ教の使命国へ行く大子供
絶戦後当時は生きのこる原生活
他口人の異郷人の安穏地帯
半死北魚の眠りの中の生活が人としての使命
住居と集落の為の土地の共同体の
10 協力体制としての共同体の外側へ

口家、土地は国の財産であるから、その売買禁止

とすべきであります。

として生活する。農村、都市の人口の過剰、都市の貧困化の問題

なるかも知れません。

世には必要。地位と給料は無制限に

あって国家と人にとって絶対不要

すべきもの。

土地共同占有とでもいうか、口農結合の高度

思いあと合意であ。

あらゆる人間協力は土地共同占有の上に

可完全に実現保障されるであ。村落も都市

も同様

民主的

曾ての国民政治は土地を共同に様
する生活共同体であったが、今の国境
内の国民は物質の獲立異質の対立
貧富の対立をはらみ、何時闘争と
変り得る要素がかくされている人に、見た
ば国境外に放逐されかね危険
性をもっている。そんな国家は今地球
上に沢山ある。
いけないのは強力な武力が国家機構に
整備されており、それを操作するが
悪しく尚更でしかもその威力は莫大
大きくなっていることである。国家主権の
犯されつゝある者は金うん家共に武力

探偵の鍵を探ってください。そこがけ
ちのつまずきなのです。

十四才

古くは村の内の団体は
村中の強制、制約
家族、私的強制
政治上の強制
死の取扱はなかった

口家
人税、
長老
家郎（財力、学問家郎）
イッテカロ中ノ団体（共意、自由）
宗教組合
政党
難民

14

大集団化の傾向

前世界圏、自由世界圏
統一体、全方（宗教外国）

日同盟
日同盟連合
外務の宗教

オリンピック大会
世界ペンクラブ
国際共産党
国際社会党

政党
大財閥
家郎団体

特殊団体、
特殊団体
形式的、名称の変
無味の変

（宗教的、社会的団体）

発芽は是非とも必要

発芽の程度は花粉の質の問題と関係とする。

が花粉の質のみの問題

種子計算器は花粉の数ではなく

人間の感覚、人間の視聴を基準に基

礎とする花粉。

人の一世代における繁殖における第一の

年の今、

人の一代は日本の面積移動のおける世代的発

展の統計的図式のあり方、児童、児童も

変遷にあるようなその平均をとれば

約二十七年強である。この二十七年はお

ける花粉の現象である。

15

363 B.C.550

1963
550
77)2513(32.64
231
203
154
490
154
360
308
52

孔子家は一代三十三、四年

今日は甚だ烈しく変化しつつある時期で
ある。然し人類に気適して時々の適
好する様の適好する一つの形が出てくる
たく一様毎に適解していって考へ
じゃ。
今日の日本の社会大系は今日の日本の状況
の烈しい変化の渦の上において持続する。
即ちそれは何一つ正しい理解に達していない
如。
今は烈しい実際がのは代 [illegible]
戦後日本構成の変化 [illegible]
巨大集団がわを支配する
然し今も昔も成すかすます
日本の武力が最大の支配力。
日本の気力は土地共同体の拡固体。今は官僚国家。

16

の支配地域。たゞ 全国家は侵略する金人
の為、今は特殊のある国体のものになりつ
ある。特殊の国体は何によって決定されるか
それは分らぬ。

先條件に

17

国民党が下部国家から部の独立

国家が下部の独立

国民社会の上に国家が組織されるのではなく、国家が国民社会を支配するようになったのである。

その結果は国家は武力によって常に力で支配組織である。どんなまにか偽べは神さまが存在と野獣のあいだにつくられたものか方法を持つかぎりは同じつまり、

国家支配するための組織である。

この支配組織が奪取した国作が国家の支配者の地位につく。彼等は武力を持つから一般奪取した支配組織は永久に持続せようとする。それがなくなる。

武力なき経済は、ただの空想である。
政府は、武力なき経済の発展のための保障である。
武力は、政府の機能である。
武力なき政府は、ただの空想である。

※
政府は、大時間の合力をかけて、
各人の経済を保障するものである。
政府は、武力なくしては、
ただの空想である。

然るである。
国民は武力なくんば、国体は成立しない。
かるがゆえに、国支配機関は、
国家機関、国民経済は商業である。
国家組織は、主権機関を形成する。
国民は武力の発達を求める。
国民経済は、生産機関を形成する。
国民生活は、生産に整備しなければならない。
我国民は、我々の敵である。
我国民は、武力を有している者である。
武力なくんば、兵隊は、
ただの人間である。
すなわち、兵隊なしの武力である。
今の国家は、武力なくして、国家の成立

20

カケ兵衛しお舞が踊りがあり、

国付

21

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ギャルピンの調査 1916
明43

農村の地域性

22

[illegible]

23

第一L：統合型

的道路：第働組合、同業組合

旧　社会

政党

旧式

一般的形態

政府、国家の支配的イデオロギーを使って

政府、国家の政治的思想的影響

第二の問題

国家の問題

新しい集団の型

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

口宵を現在の身分体験の中に投影する。
は何か、は考えている。口宵を外ずすだけでなく
内側から拡張する必要がある。
但しそれは単に外からではなく、外部の上に乗って拡張
する必要がある。
口宵の解放は
「海」の色や香りが意味
して来た。

口宵解放論

口宵の枠内でなければ集団化出来ない。
口民生活の口宵の枠内まで
ある。口宵の枠が第一で、その内の集団
活動は枠である。現在ちょうどあるかぎり
しかもそれは逆説的に言えば、
しかしそれはいつも口宵
先取って勝ち集団を作ることがまた
高田さんの考えにはパートもマネージャーの考え
方特にマネージャーの考え方を改善が必要
だ。マネージャーは自分を中心に30人くらい
人間結合の結び目をアッシェンシェンとなって
大切なのはアッシェンシェンの思想を一つの
独立した政治的結合をはかることを目的とする。

部分等と全体社会の関係と流出等と
基礎社会の関係はよく似ているが発生の順序が同一でない。
全体等は部分社会の累積の上に出来る
即ち部分社会が先きで全体等が
あとである。それに対して基礎等は流出
社会が出て行った相離ではなくこれは
基礎社会が先で流出等がおくれてある。
これは大きな相異である。
高田博士はこれを混同している。マキーバーの考えもパレートの考えも混合している
アソシエーション
の口家は部分等であるとも混ぜるならば
全体社会（コミュニティ）に先だつものであり基礎等も
流出等と混ぜ合わせ流出等はキッチンのもの
と同類であるとこれはキッチンである。

レッテル、口家はかくのごとくアソシエーションの一つで
あると見て他の他の実例口家説を主張し
口家はかくのごとき考えを有する大なる誤謬
あるのみならず多くの社会学者はこの考
えの誤りたる。
高田博士は太のごとくアソシエーションを
部分社会とコミュニティに対するとして全体社
会とし、また口家は一つの部分社会で
あり、部分社会の基礎に組織体の
社会とし全体社会があるとこれ
はやはりこの考えと全く同じであるとけれど
口家は全体社会をその中の独立的
なものとし組織体と考えた。口家学派
の考えは全体社会の構成は進化

※
然し口家は御存知ではあるが、口家が決定した地域の限定は一切の新学説の活動をその内に限定し、その内部に新学説の累積を結果し結合金作用を形成せしむ。口家の機能の中にある地域の限定とおさうがそうさせるのである。

事実は口家の枠が先づ決定してその中に様々のアッシュエーションが出来たのである。

様々のアッシュエーションの累積の上に口家とあるアッシュエーションがふさつたとは思はない。

新学は口家成立前の世相について知りたいが知り得ない。

もそれは口家そのものの性格を明らかにするために新しい(の新機)

なければならぬ。口家そのものは地域で決まっている。

28

が土俵作りまつりに於て成しつゝあるよ

金作用がそのものこの形神上の機能

マカ不思議で慶ぶによって見きわつて

ものとされました。

金作用がそのしかたは大わさ

に分析し、口家は一つの集団と見

ることは一つの大きな進歩である。実験研

究者の見出した事は非常に面白く

なければ土俵作りに於て金作用がそのものが立

上つた。

凡そ集団の機能が森羅万象は何にイン

ヤンとつて実験研究者の思ひ

口家は組織された集団であるから機能が

[illegible]

国家はその国境線内のどんな団体について（集団の）存続を許すか許さぬか、否認されるか、一つ国境線（より）の大きな武力によって国境線が守られ、国境線の[illegible]の国家にさからえる同胞か[illegible]かは[illegible]らぬ。

要するに国家は強力な大集団について（国境の内外にある）服されねばその集団の支配に従って国民は[illegible]生活は入らなければならぬ（どちらかの道を）。

[illegible]の国家は強力な大集団かその（国の内外の国家支配者の位置を[illegible]）

現在国に従ってどんな国民を[illegible]創り出しつつある。

ここでは依存者は全然同胞でなく国の内外の大集団が何時どんな国家を形成するか全く測り難い。

そんな種類の[illegible]なければならない。一つの[illegible]がおこるか何か一つの国土[illegible]

一つという[illegible]ではない。[illegible]

国家は[illegible]の土地に[illegible]一つの[illegible]人間の土地に[illegible]

[illegible]力の[illegible]の国[illegible]

その大切な[illegible]

国家が一つの国の内に[illegible]

その一つが統治者[illegible]

国家[illegible]

国家は統治者達[illegible]国民は[illegible]

[illegible]国民も統治者の[illegible]

[illegible]

例から[illegible]の一つである。

[illegible]どんな民族[illegible]国家は国民の

[illegible]の[illegible]は[illegible]国家は

統治[illegible]（統治集団）の[illegible]

統治の[illegible]

[illegible]統治国も国家も[illegible]

[illegible]統治集団の[illegible]

は国家に[illegible]この組織の[illegible]

30 いつも存在しているのは[illegible]に[illegible]。

31

地域団体

地縁性をもつ地縁の上に立つ集団

組織

土地と協働力の組織をもつ

集団

最末の民の物心

日常の意義

高田

稀有

口境の二様の概念
法的概念
政治的概念
口民が住することは政治的概念―労者の属備
製作を同じ。

全体社会というものではなく、個々の集団に異なるものとして、その地
まぐなる地域がある。共同体は土地に対して新たに要求し
口の上には権利を制約の関係がある。新たに
つながるという同一の精神を保つ。これを共同の精神と
保持し自然的なものである。
その精神の中で一番大切なのは口家の、土地共同体としての
おのの防衛所。都市の構成要素か、都市の
城壁に囲まれた口境は防衛体制に集中した)

32

予備知識(土地共同体としての口家)
口境内に住むもの同民なり。
口境の意味、政治的には唯一の土地
共同体の構へ、古くは家族の共同体、村落
前者の城壁を有しているか否かは
一口境に人は土地を作り力が新たな手
中している。口境に於ては境界は学
いう付けている。口境は境界の意味は家同一
白板以外は[illegible]
マキャベリのつもりであった。高田博士の全体
郭外ゲイ(キンダ派教会)口家は何か
二人の者へ。ソロキンの言うてて
機構のつもりでして相土域性が
高田の如何か口家を具体的組織

△日本文化は西洋文化やアジア文化の外にあり独一の特殊三元たはなしアジヤ文化の中の特殊部文化

※土地共同体験の特殊さ。民族学者は地共同体験の上にある。△

◎どんな階級にも職業にも土地の上に根は思想であるからである。けれどもこの現象はだんだん弱力となりつゝある。昔の土地に居住する者は昔地にその土地に住むるかぎりとそれが可能性が漸次うすれつゝあるからである。

キンカンなど文は金銭などの形態にしかすぎない。

二人はキンカンである。金銭などのものなどとなる。

力とこゝに強りかの。土地共同体の新しいあり方

の特殊性が◎ある。

まはるがの事の敗北のためとなる敗北の特殊

として土地と根ざす思想。

現代の我々の思想体験

日場は日本の民族は林業成熟する。

いる。イエスの基礎を方がのはなくて中

中可の◎者の

我々の土地の体験、共同

アジヤ共化

比較の地域開発への社会学的の研究。

ゆかい級友とともに

住民の生活の搾削

どこでも年貢を納め何年かつく勝手
者に今では政府から取りたてられ[illegible]
も戦と搾取されながら今日も搾取され[illegible]
住みついた土地は自分のもの、住みついて搾取
かわいそうなかなしさ

（十月三十一日）

日本社会の社会学的研究への系譜

コント
スペンサー
デュルケーム
ウェーバー
ジンメル
ホブハウス
マクドゥガル
パレート
マキアヴェリ
高田保馬
福武直
パーソンズ
ハーバーマス

著者代表説
聖典説
日本特殊的社会
社会の構造

基礎理論

学問的
研究

前おきの言葉

昭和十年頃、農村疲弊の時の素描で

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

（十一月十九日）

(十)

もう国民ではなくなる人も多い。要するに
いのは国境を勝った国体のみにおいて
である。今では国家は全体社会の上に位
形成されるべきである。
コミュニティーは目的団体の義務の上に
思想から発展したものか、国家も
かくのごとき目的団体の一つであるとをいうて、
しまうなら、何のために作ったコミュニティーの概
念であるか。コミュニティー自体の目的とか機能
とかとまるはずはなく、自治の何かのようも
義務を果すはこのコミュニティーではないのか。
コミュニティーは集団ではなく、国体又は圏と
して思われるものは、国民社会も国体又は
国である。自然おもむいて、国体論に帰する。

31

国民社会とは
人格社会は都市社会の線体のもとに
形成されるとの考え方
その人格社会の組織体としての国家、
国家は全体社会の上にかぶさっている考
国家はもはや国と結合体を想
考へ
加し今では多国的国体が成
長する国体も国外に放逐されるに来
る。国境は国家にしても社会は人は選択
し得る。国家というのは国境で人の社
会ではない。故ないのは国境の国民であ
って社会は勝手な国体論である。そこに
国家社会は皆全体社会員ではあるか (十)